

iPad を活用した活動報告書④

◆報告者氏名：露崎 謙治 所属：横浜市立盲特別支援学校 記録日： 2013年2月27日

◆活動内容のタイトル 「漢字学習のための支援」及び「視覚機能の向上」

◆活動内容の概要：

強度弱視の児童であるため、漢字の習得が難しい状況であったが、「かんじ1年」及び「HD 小2かん字」などのアプリを活用した所、意欲的に楽しんで学習する習慣が付いてきた。

【対象児（群）の情報】

◆学年： 小学部2年生 男児1名

◆障害名： 網膜色素変性症

◆障害と困難の内容

視力は(右)0.1(左)0.08の強度弱視児童で、戸外では大変まぶしがる様子が見られる。また、書字に苦手意識をもっており、ひらがな・カタカナの文字習得がやっと終わり、小1の漢字学習が必要な状態である。

【活動目的】

◆当初のねらい

「かんじ1年」及び「HD 小2かん字」などのアプリを活用し、かん字の習得をねらった。また、書写の時間にかん字の書き順指導に使用することを目的とした。

◆実施期間 5月～2月

◆実施者：露崎 謙治（担当教員）

【活動内容と対象児（群）の変化】

◆対象児の事前の状況

文字に対しての苦手意識があり、ひらがな・カタカナを完全に覚えきれていない。小1かん字は、なんとか読めるが、書けるのは数文字だけである。

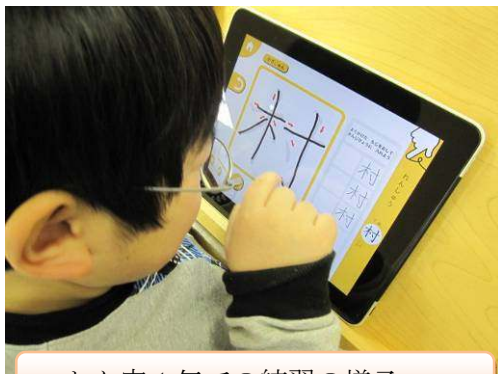
◆活動の具体的内容

使用したアプリ（「ひらがな・カタカナなぞり」「かんじ1年」及び「HD 小2かん字」）

◆対象児の事後の変化

時々ひらがなを忘れるので、「ひらがななぞり」のアプリを行ってきたところ、ほとんどの文字を習得することができた。また、カタカナにおいても「ルハワナムネ」以外は、ほとんどの文字を習得することができた。なぞり書きで練習をした後に、紙面での書写もできるようになった。

アプリケーションソフト「かんじ1年」及び「HD 小2かん字」を使用して、漢字の書写を繰り返し行った。H25・2月の現在では、小1漢字をほとんど読めており、書ける漢字も半分ぐらいになってきた。iPad を利用したことで、意欲的に学習しながら漢字も習得でき、非常に効果的であった。



かん字1年での練習の様子



アプリ練習後の書写の様子

【報告者の気づきとエビデンス】

◆報告者の気づき

今まで、文字学習に対して興味・関心をあまり示さなかった児童が、iPad を使用することで、積極的に学習に取り組むことができた。アプリを使用したことで、習得できた文字数も増えて、学習をさらに発展させることができた。文字の模写の宿題も、すすんで取り組むようになってきた。また、保護者が学校での様子を見学し、集中して学習に取り組む姿に驚かされていた。